

# 「不易流行」

「不易」は「よき伝統を守りながら(不易) 進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって、

「理想」を創造する」

## 『明るい未来を支える子供たち』

今年も雪が降らない穏やかなお正月でした。奥大山スキー場も12月17日のスキー場開きは無事にできましたが、その後まとまった雪が降らず、どうなることかと気をもんでいたところ。幸いに1月中旬の寒波によりまとまった雪が降り、スキー場のコンディションもよく、また、阪神淡路大震災から22年、鎮魂の雪地藏を作るための雪も無事に送ることができました。しかし、大雪はいいことばかりではありません。消防出初式の分列行進も放水も中止になりました。また、あまりの積雪のため、速やかに十分な除雪ができずご迷惑をおかけしたところもありました。しばらくは積雪の季節が続きます。できる限りの対応はしていきたいと思えますので、ご理解、ご協力をよろしく願います。

さて、先日二十数年ぶりに中学生



議会が開催されました。江府中学校の3年生が6つの班に分かれて、江府町のことを学習し、それぞれの班の代表者が議場で質問をしてくれました。少子高齢化、過疎化など、江府町を取り巻く課題に焦点をあて、観光イベントの充実や保育料無償化のPRなど、具体的な提案もありました。私も普段の議会の時と同じように、真正面から答弁をさせていただきました。テレビ局と新聞社の取材も入っていましたし、多数の傍聴者もあつたので、緊張したとは思いますが、しっかりと質問をしてくれました。質問者から「自分たちがやらなきゃいけない。」という発言もありました。江府町の未来は明るいと感じました。彼らも5年後には成人式に出席してくれると思います。この経験をその時に思い出してくれる生徒が一人でもいたら嬉しいな、今から未来に思いを寄せているところ。です。

# 「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム報告

第5回目のコラムは建設課梅林徹が担当いたします。普段は主に地籍調査業務の担当をしております。

昨年発足した「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム。昨年10月には地域自治の先進地である島根県雲南市で研修に参加し、10月には江尾会場、12月には明倫会場でワークショップを開催してきました。12月のワークショップの様子は日本海新聞にも掲載いただきました。1月はプロジェクトチームで出向くことはありませんでしたが、これから俣野会場、米沢会場へ出向くための準備を整えております。日程や内容などが決まりましたらご案内いたしますので多数のご参加をお待ちしております。

さて、1月14日の日本海新聞の「人」という記事欄に、子どもや学生向けにプレゼン技術を教える活動に取り組む一般社団法人「アルバ・エデュ」代表理事竹内明日香さんの記事が掲載されました。竹内さんは銀行員として投資家向けの営業をする中で「日本にはよい商品やサービスがたくさんあるのに、プレゼン力不足で十分に伝えられない」と感じるよう

になり、企業の情報を支援する会社を2009年に設立されました。発表や資料作成の指導を始められましたが、「もっと早くから身に付けないと日本は世界で立ちゆかなくなる」と危機感を抱くようになったそうです。「誰かがやらない」という決心のもと、14年に法人を設立され、これまでに出席授業は2年間で約40回を数え、15年には経済産業省「キャリア教育アワード優秀賞」を受賞されました。「大事なものは大きな声で発表し、それが人に伝わったという成功体験を積むこと。思考力や表現力は後からついてくる」と竹内さんは強調されます。

「3000人の楽しい町」プロジェクトは発足当初から「公開に見えるようにする」、「自分たちから出向いて住民さんの声を聞く」、「わかるように伝える」ことを大切にしてきました。私は竹内さんの取り組みと通じるところがあると感じました。「江府町にはよいものがたくさんある」。だからこそ、これからは住民さんと一緒に大きな声で伝え、いろんな人に伝わったという成功体験を積んでいきたいと思えます。

(梅林 徹)

動画で町報こうふ!



前回の報告会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。